

私は毎朝、子供達を学校に車で送ることを19年間やっている。

最初の15年は札幌の南にある大谷おおや地まで通った。四輪駆動のセダンタイプのカムリで、朝7時過ぎに自宅を出て25分運転すると、5分ほどでスクールバスがやって来る。車はパチンコ店にお願いして駐車場に停めさせてもらい、年末には十勝の小豆5kgほどをお歳暮として受け取ってもらっていた。

アジアには未知の病気？

たった5分間にいろいろな光景が目に入る。幼稚園のヨボヨボ歩きが小学生になると、顔と比較してランドセルがだんだんと小さく見えていくのがわかる。ピチピチ服の女性は2年程度で見かけなくなつた。いつも右肩にシヨルダーをかけて、疲れ切つて見えたお父さんは5年くらいで消えた。いつも紳士帽を被り、右手の親指と人差し指に缶コーヒ握り、同じ右手の人差し指と中指にタバコを下向きにはさみ、缶コーヒを飲むときは器用に火のついたタバコが顔に当たらないように、歩きながら飲んでいたら私より15歳くらい上の人は、いつも咳込んで歩いてたが、3年くらいで消えた。

日本は転職が少ない長期勤続型の社会だといわれるが、15年間見えて

る限り、そうでもないことがよくわかる。

このパチンコ店の駐車場を使っているのは私だけではない。アメリカ防衛産業と韓国人の子供達だったり、アメリカ人のおもちゃ関係の子供もいた。

ある初冬に大谷地のバス停近くでウロチョロしている10歳くらいの金髪・ブルーアイのボーイがいた。もしかしたら……と思つたら、やはり同じスクールバスに乗つた。

翌日もそのボーイが来た。初冬とはいえ外は寒い。そこで目線が合った時に車から手を伸ばして、カモンッ ポーズを取つた。右ハンドルのカムリなので左手を伸ばし、指は手の甲の上に向けて人差し指を前後に動かした。指を手の甲の下にして指を動かすと、「あっちに行け！」になるので注意して私のフィンガーテックをお見せすることになった。それを見てそのボーイの動きが止まったので、助手席の窓を下げ、車に入るように「Hop in (入ったら)」と促した。彼が少しタメラッテいると、いつもよりもスクールバ

日本は小作人根性に溢れている(5)

Vol.146



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作物にする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョシディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

スが早く来て、乗り込んで行った。

次の日もそのボーイはいる。助手席の窓を下げて、「Hop in」と促した。そのボーイは、後部座席にいる私の子供達が同じ学校に通うことを確認するでもなく、「Hello」と言つて乗り込んで来た。車内での公用語はイングリッシュになる。私も負けじと洗練された「you know, me know, I do not know」のフレーズ

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

で応えた。

バスが来るまでのわずから5分間だが、勉強になることもあった。ある時、私は「そういえば君の Dad や Mom はバス停まで送りに来ないね?」と聞いてみた。欧米系の親は子供をバス停まで送りに行くものだが、この子の場合には違っていた。私は勝手に日本が安全だから送りに来ないものだと理解していた。だが事実は少し違っていた。

真冬になるとそのボーイは、何も言わずとも助手席に Hop in するようになってきた。子供たちの冬休みに家族でアメリカに行き、学校が始まる前日に成田に到着して夕方の子供の飛行機を待っていると目の前に金髪・ブルーアイのそのボーイが飛び込んできた。彼も親の故郷オーストラリアからの帰りだったのだ。よく考えて見ると、その時もそのボーイの親はこちらに来て話しかけなかったが、まあ、そういうこともあるさくらいに思っていた。翌日からまた、そのボーイが Hop in しているいろいろな世間話をした。ところが、ある日、そのボーイからビツクリするような言葉が飛び出て来た。「実は親からアジアには Unknown disease (未知の病) があるから気をつけるよ(う)に言われている」と。私は、俺

たちのことか?となり、「西洋には Wellknown Disease (既知の病) があるから心配するな」と言い返した。翌日からそのボーイは私の車に現れなくなった。今考えると、私も10歳の子供に大人げない対応をしてしまったかな、と思うことはある。子供達に聞くときまだ学校に通っていたらしい。そのボーイの親は札幌市内の外資系企業のトップで、3年程度で世界中の拠点をぐるぐる回っているの、不必要に知り合いを作らない方針なのかもしれない。そんな会社だから今は日本の会社を買収されてしまった。

そう言えば彼と知り合って4カ月目くらいに、いつものように助手席に乗り込む時に頭がドアに軽く当たってしまった。その時「あっ痛っ!」と日本語で言った。私は「なんだ日本語ができるのか?」と聞いた。「札幌に来て3カ月で会話ができるようになった」と答えた。そのボーイの言語能力が高いのか?多くの日本人の10歳の言語能力が低いのか? その答えを導くのはあなた、その親の責任です。小作人根性の皆さんも、ご自分の子供達の無限の可能性を閉ざす能力を発揮させて、早く都市に吸収されると、私はその土地で規模拡大します(できます)。

日本はまだ貧しい

ところでワーク・シェアリングという日本語、皆さん覚えていますか? 厚生労働省のホームページによると、高齢者雇用の推進、多様なキャリア展開の支援、仕事と生活の調和、副業、兼業を認める制度などがある。日本は豊かな社会だ。その豊かさを税金とその予算配分だけでやっていく社会は普通で未熟な社会だ。

この武漢関連で仕事がなくなった者が農場に来た。最低限の給料は保証されたが、家族持ちとして当然やっていけない。その会社も副業を勧めることになったという。35歳の彼は昔、アルバイトをしていたこともあり、ちょうど人手の必要な仕事もあったので、しばらく農場で働くことになった。ただ7月以降のバイトが決まらないのだ。22人いる地元農家ライングループに情報提供してもなんの音沙汰もない。オイオイ、みんな知ってる長沼人だろ、こんな時にワーク・シェアリングしないのか。今回の武漢関連で身近の穀物農家にはそれほど影響はないようだ。そんな時に富を分かち合わないか。だって子供の時から自民党支持の共産党の教育を受けているだろ。YouTubeでワーク・シェアリング

と検索しても今年の動画はほとんどない。英語で検索すると、あるある! 日本はまだまだ貧しいのだ。東京は豊かだとかオリンピックがどうのと言う前に、武漢関連の死亡率が日本より数倍も高いアメリカの豊かさの根源は何かを勉強する必要があるだろ(決して皮肉ではない)。

まして大陸系がアメリカを超えて豊かになる世界を見ることは、今生きている人たちは実現できないだろう。たった一世代で豊かな社会になることはありえないことだ。豊かさが次の社会に引き継がれるには最低3世代が富を共有しないとイケない。つまりワーク・シェアリングもできない農業生産者は貧乏で、子供も親と同じ程度で、イングリッシュで素人金髪・ブルーアイを口説けないう、役立たずの糞尿製造有機体だと自らが宣言しているものだ。

来年就職予定の私の長女には「就職大変だけど、これも何かのチャンスだから、アメリカ海軍にでも入ってカッコいい金髪・ブルーアイ見つけてこい!」と強く勧めている。長男には「アメリカの AFROTC (空軍予備役将校訓練課程研修士官) コースのある大学に入って、お国のためにアメリカ空軍の飯炊き部隊に入ったらどうだ?」と勧めている。どうだ、素晴らしい父親だろ。